

プロメテウス解剖学アトラス コンパクト版

坂井建雄 監訳

市村浩一郎, 澤井 直 訳

＜書評者＞ 大塚愛二（岡山大学教授・人体構成学）

この、『プロメテウス解剖学アトラス コンパクト版』を手にした時、「ここまでするの？」という印象を持った。

数年前、『プロメテウス解剖学アトラス』3分冊版の翻訳を手がけた。図のすっきりした見やすいアトラスであるという印象を受けた。また、さまざまな情報を図表にまとめようという著者の熱意が伝わる書物であるとも感じた。昨年（2010年）、3分冊をまとめて1冊にした「コア アトラス」が出た。こちらは価格も1万円以内で、学生にとっては手ごろな解剖アトラスとなった。

今度はコンパクト版である。これは、もともとフラッシュカードで裏表の印刷であったものを、左右見開きに印刷している。オリジナルの美しい解剖図版はそのままだ。カードは、学習の整理（とい

うか、暗記）をするための教材である。日本では、あまりなじみがなく、またカードだとバラバラになってしまい、行方不明のカードも出やすい。試験が終わると、あまり使い道もないので、書棚の片隅に追いやられるだけの運命かもしれない。この日本語コンパクト版は、見開き印刷で綴じられているのでバラバラになることはない。また、すべての事項が索引で網羅されている。この2点がカードと違い、使い方に幅を与えている。なんらかの仕事や学習のときに、ちょっと手ごろな解剖のアトラスがあるといいなと思うことはよくあると思う。そういうときに机上で場所をとらない本書はもってこいだろう。

ただし、引き出し線を引いて示している項目は限定されている。これは、もともとフラッシュカード

であるためである。図には周辺構造として表現されている場合が多いので、自分で書き込むとよい。そのための余白は多い。また、本書だけで解剖学実習に耐えられるかという点、答えはノーであろう。実習に必要な事項はもっと多く、これだけでは不足している。実習にはできれば3分冊版、少なくとも「コア アトラス」程度が必要である。本書は、実習後の知識の整理に使うべきであろう。

別の使い方として、病棟のスタッフ・ステーションや外来診療室で、医師だけでなく、看護師などのスタッフが利用するのもいいと思う。また、患者さんや家族に病状を説明するときにも使えるかもしれない。

昔、「一粒で二度おいしい」というCMで売ったお菓子があった。プロメテウスは三度おいしいアトラスになるだろうか。

●B6 頁816 2011年

定価 4,725 円

（本体 4,500 円＋税 5%）

[ISBN978-4-260-01126-6]

医学書院 刊